

「川遊び楽しい」 相馬市から来勝

星槎グループと市
被災地の子供招く

東日本大震災で被災した福島県相馬市の子供を夏休み中に受け入れる活動「北の大地に会いに行こう2014夏」で、小・中学生39人が十勝入りし6日、エールセンター十勝近くの札内川で川遊びを体験。相馬では被災後、川遊びは制限されているだけに大喜びだった。



た。
通信制高校などを運営する星槎グループ（本部神奈川県）と帯広市の共同事業。一行は5日に十勝に入り9日まで帯広市八千代のカウベルハウスに滞在、野外活動や豚丼作りなどを体験する。

この日、子供たちはライフジャケットとヘルメットを着用し久しぶりの川遊びに。川の魚や虫などを捕まえるなど楽しんだ。子供たちは北海道の川水の冷たさを肌で感じ、はしやいだ。

参加した畠山亜都さん（中村第二小3年）は「いろいろな生き物がいた」と楽しそう。

横山愛さん（桜丘小3年）も「川に浮かんで流れているとき楽しんでいた」と笑顔で話していた。

網を手に水中の生き物を捕まえ
て遊ぶ福島の子供

（大谷健人）